

御前崎港 港湾脱炭素化推進計画（案）  
【概要版】

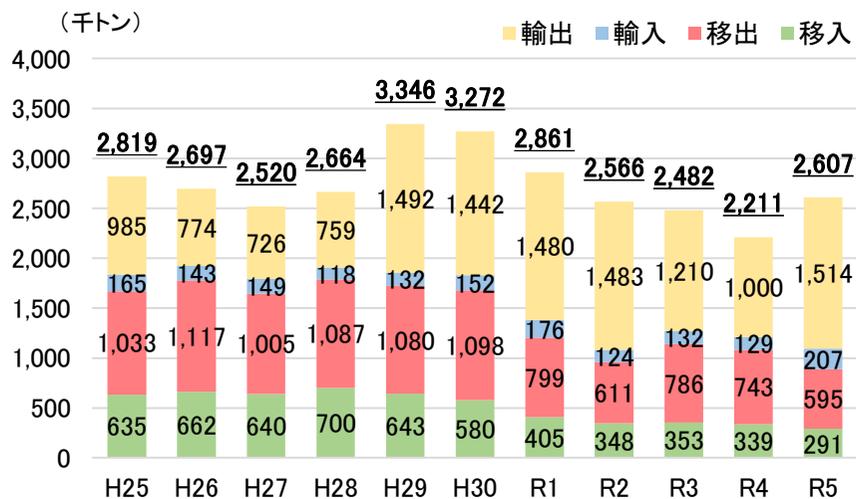
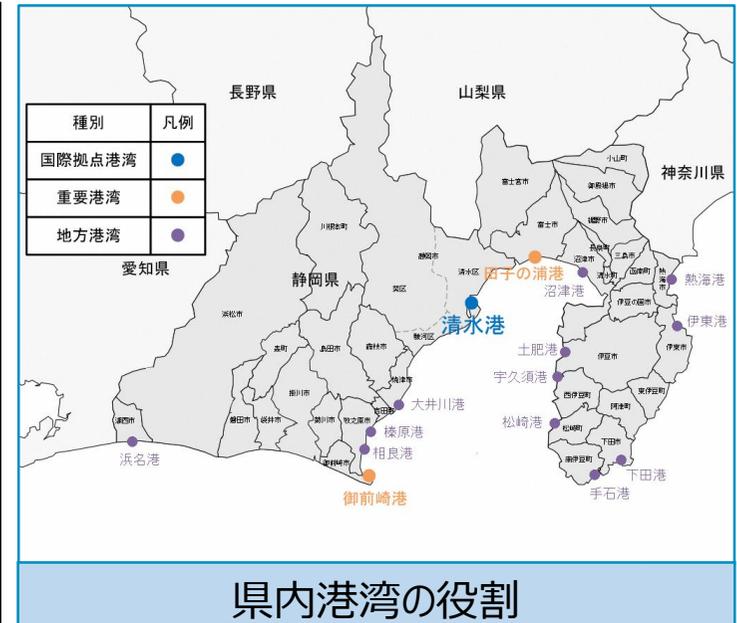
---

令和7年●月  
静岡県（御前崎港港湾管理者）

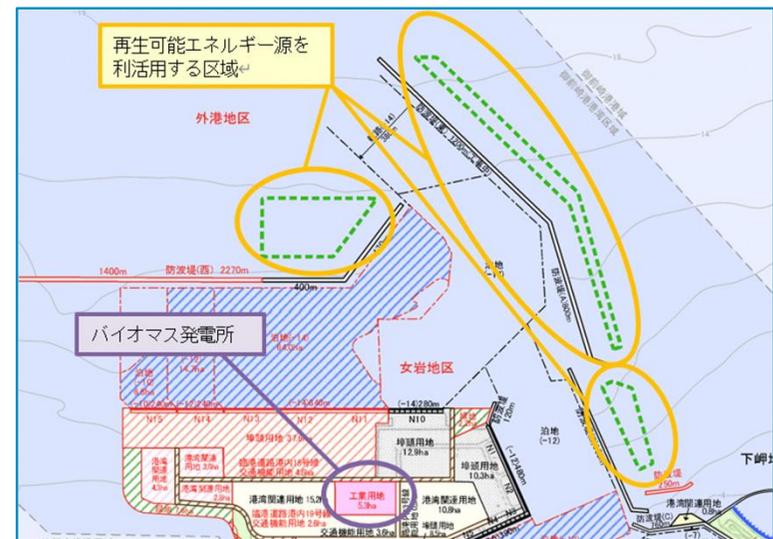
# 1. 基本的な方針

## (1) 港湾の概要

- 重要港湾として、県中西部における物流、産業開発の拠点として多目的な利用を目指した開発が進められてきた。
- 御前崎港の取扱貨物量は、ここ数年は約200～300万ト前後で推移しており、輸出・移出の割合（約8割）が高く**積出港としての特徴**がある。
- 主な取扱貨物は**完成自動車と自動車部品**である。
- 外港地区に**エネルギー関連ゾーン**を追加し、**再生可能エネルギー源を活用**する区域を設定した。
- バイオマス発電所の新規立地の需要に対応するため、女岩地区の一部を工業用地に変更し、令和7年3月（予定）のバイオマス発電所の運転開始に伴い、背後地域への**クリーンエネルギーの供給拠点**としての役割が期待されている。



御前崎港の輸移出入別取扱貨物量の推移



# 1. 基本的な方針

## (2) 計画の対象範囲

○対象範囲は、官民が連携し、港湾という場を効果的に利用することによって、脱炭素化を促進しようとする以下の取組とする。

- ・ターミナルにおける脱炭素化の取組
- ・ターミナルを経由して行われる物流活動に係る取組
- ・港湾を利用して生産・発電等を行う臨海部に立地する事業者の活動に係る取組
- ・ブルーカーボン生態系等を活用した吸収源対策の取組 等



<御前崎港港湾脱炭素化推進計画の対象範囲>

## (3) 取組方針

### ① 温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化に関する取組

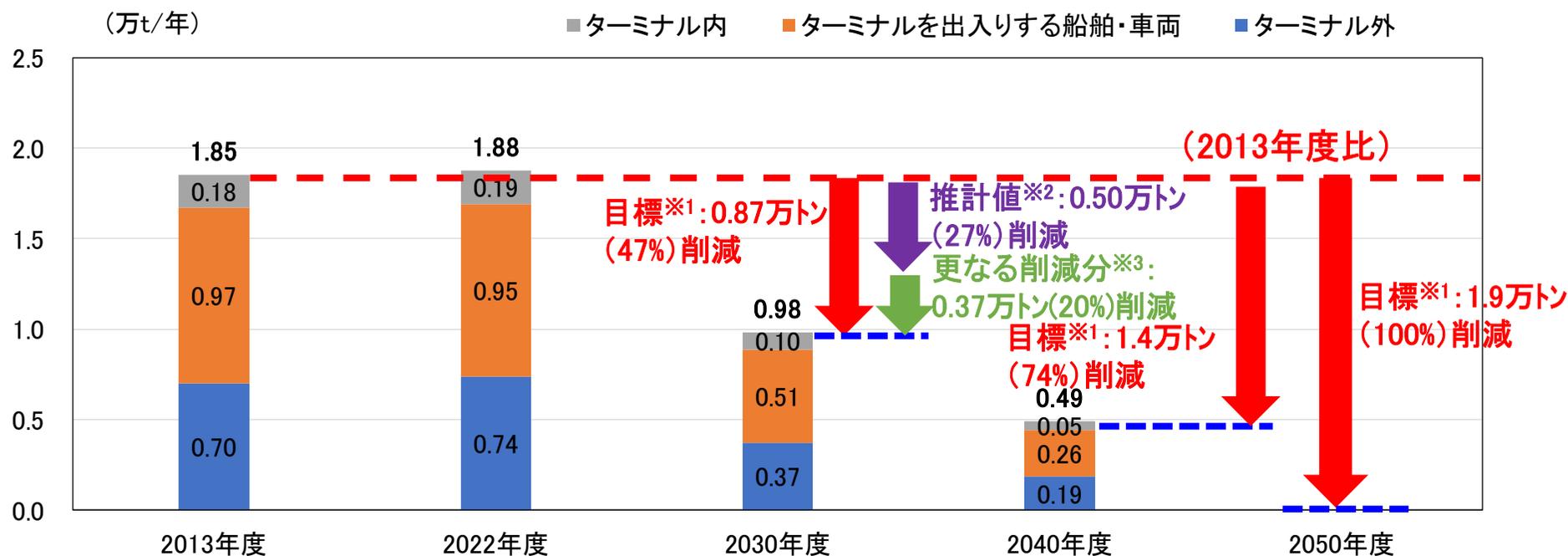
- ・コンテナターミナルの**港湾荷役機械の低炭素化・脱炭素化**に取り組みるとともに、ターミナル内の**再利用**を促進することで、使用電力の脱炭素化を図る。
- ・ターミナルを出入りする車両・船舶の**電動化・水素燃料化**等に取り組み、ターミナルに係る**オペレーションの脱炭素化**を図る。
- ・港湾緑地の整備や藻場の保全に取り組むことで**CO2吸収**による脱炭素化を図る。

### ② 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する取組

- ・港内の各地区及び背後地域の需要に対し、円滑かつ安定的な供給を実現するため、**次世代エネルギーのサプライチェーン構築と輸送手段の確保・整備**を進める。
- ・太平洋沿岸の航路に近い立地環境と広大な港湾拡張用地を活かした、**バイオ燃料輸送の拠点**の可能性を検討する。
- ・御前崎港周辺海域における日本屈指の好風況を活かした、**洋上風力発電の導入に向けた取組み（基地港湾、O&M港）**の検討を進める。

## 2. 港湾脱炭素化推進計画の目標

	具体的な数値目標		
	短期（2030年度）	中期（2040年度）	長期（2050年度）
KPI 1 CO2排出量	1.0万トン/年 (2013年度比47%減) (※削減量0.9万トン/年)	0.5万トン/年 (2013年度比74%減) (※削減量1.4万トン/年)	実質0トン/年 (※削減量1.9万トン/年)
KPI 2 低・脱炭素型荷役 機械導入率	35%	68%	100%
KPI 3 ブルーカーボン生 態系(藻場)の保全	藻場の保全 0.28ha	藻場の保全 0.28ha	藻場の保全 0.28ha



※1: 「第4次静岡県地球温暖化対策実行計画 (R4.3)」を基に本協議会で設定した削減目標 (KPI 1)

※2: 対象範囲の立地企業へのアンケート・ヒアリング調査を基に設定した推計値 (個別企業の削減目標を参考とした)

※3: 現時点で想定される削減量 (推計値※1) に加え、2030年度の目標値47%達成に向けて、必要となる削減量

### 3. 港湾脱炭素化促進事業及びその実施主体

#### (a) ターミナル内

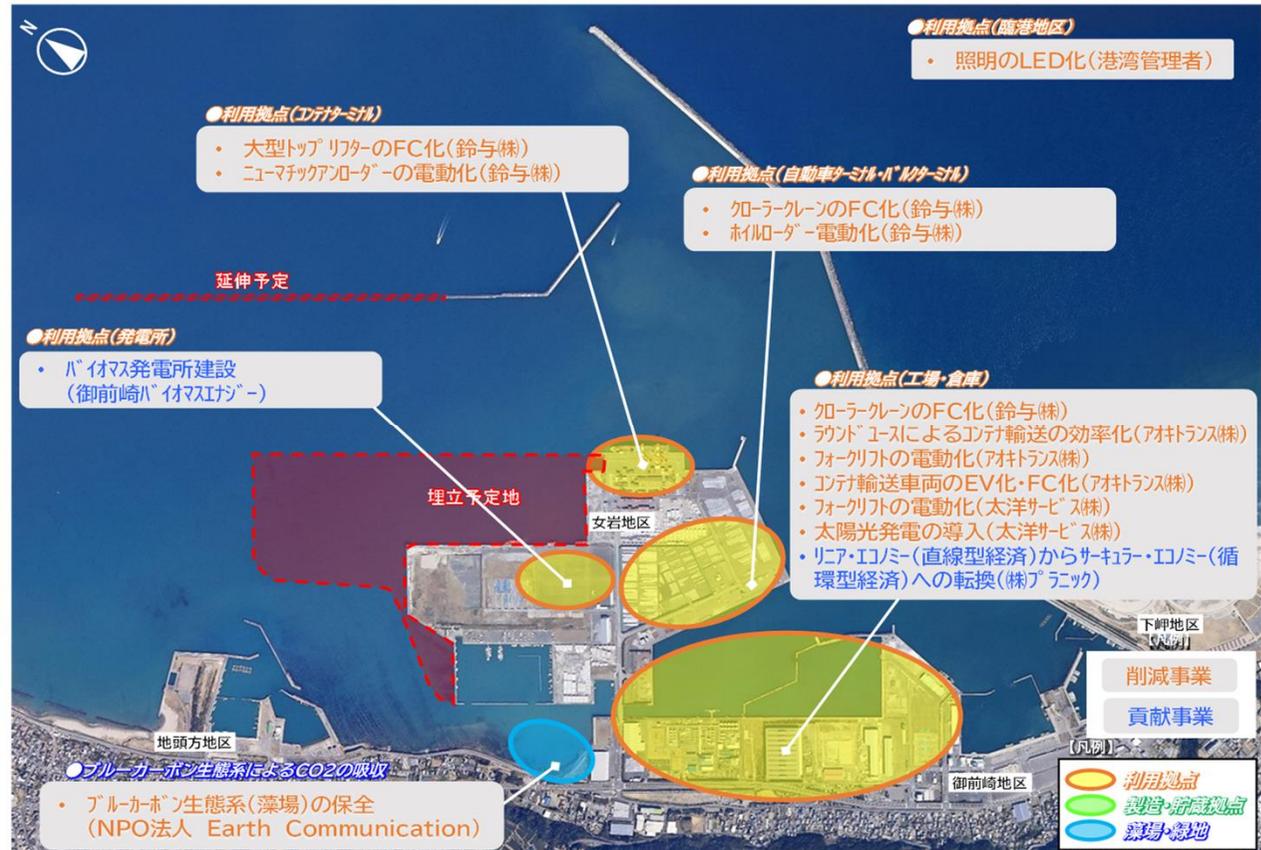
- ・ 大型トップリフターのFC化
- ・ クローレーンのFC化
- ・ ホイルローダー電動化
- ・ ニュマチックアンローダーの電動化

#### (b) 出入り船舶・車両

- ・ ラウトユースによるコンテナ輸送の効率化
- ・ コンテナ輸送車両のEV化・FC化

#### (c) ターミナル外

- ・ 照明のLED化
- ・ フォークリフトの電動化
- ・ 太陽光発電の導入
- ・ ブルカーボン生態系（藻場）の保全
- ・ バイオマス発電所建設※
- ・ リニア・エコミー（直線型経済）からサーキュラー・エコミー（循環型経済）への転換※



※の事業は「港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業であるため、下表のCO2削減量には含まない。

◆削減事業：温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化に関する事業  
 ◆貢献事業：港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業

### 港湾脱炭素化促進事業によるCO2 排出量の削減効果

項目	(a) ターミナル内	(b) 出入り船舶・車両	(c) ターミナル外	合計
①：CO2排出量（2013年度）	0.18万トン	0.97万トン	0.70万トン	1.85万トン
②：CO2排出量（2022年度）	0.19万トン	0.95万トン	0.74万トン	1.88万トン
③：港湾脱炭素化促進事業によるCO2排出量の削減量	0.12万トン	0万トン	0.004万トン	0.13万トン
④：2013年度からのCO2削減量（①-②+③）	0.12万トン	0.02万トン	-0.03万トン	0.10万トン
⑤：削減率（④/①）	65.0%	2.0%	-4.7%	5.6%

○今後、民間事業者等による脱炭素化の取組の具体化に応じ、港湾脱炭素化推進計画を見直し、港湾脱炭素化促進事業へ追加していくことによって、目標に向けて削減率を高めていく。（※端数処理のため、合計と内訳の和は必ずしも一致しない。）

# 4. 港湾における脱炭素化の促進に資する将来の構想

## (a) ターミル内

- ・ 荷役機械の低炭素化・電動化・FC化
- ・ 太陽光発電の導入
- ・ 完成自動車の輸送合理化の利活用
- ・ 輸移出完成自動車のハイブリット型車両比率の向上

## (b) 出入り船舶・車両

- ・ 水素・アンモニア燃料船の導入
- ・ LNG燃料船の導入
- ・ 陸上電力供給設備の導入
- ・ 船舶の大型化
- ・ 輸送車両のEV・FC化

## (c) ターミル外

- ・ CO2回収設備の導入 (CCUS事業)
- ・ CO2回収設備・合成燃料製造設備の導入 (CCU事業)
- ・ 運搬車両のEV化
- ・ J7ブルークレジットの購入
- ・ 早生樹の植林
- ・ ボイラー燃料の切替 (重油→LNG)
- ・ ボイラー燃料の切替 (LNG→e-メタン)
- ・ ブルーカーボン生態系 (藻場) の整備
- ・ 港湾緑地の整備
- ・ 海中藻場の測量技術の確立※
- ・ 洋上風力発電設備の建設・維持管理に必要な港湾の施設建造・改良※
- ・ FCV・EVへの水素・電力供給設備の普及※
- ・ 再生可能エネルギーの活用※
- ・ エネルギー管理による再生可能エネルギー利用率の向上※
- ・ CO2フリー電力への転換※

※の事業は「港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業。」



- ◆ **削減事業**：温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化に関する事業
- ◆ **貢献事業**：港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業